

山田昌弘委員 発表資料

令和元年5月15日

東京都社会福祉審議会 検討分科会（第1回）

格差社会の進展と「家族主義」の限界

山田昌弘（中央大学・文学部・教授 社会学）

目次と要約

1. はじめに 社会的連帯と家族

近代社会 自分の生活を犠牲にしても尽くす 家族と国家に依存

2. 日本の社会保障システムの前提

① (望めば)正社員になれる ② (望めば)結婚できる

* 全員が結婚して家族形成でき、家族には正規雇用者がいる

3. 格差社会の進展 二つの前提の崩壊

① 非正規雇用者の増大 ② 未婚、離婚の増大

* 家族に包摂されない人々の増大(単身者、ひとり親)

* 中高年親同居未婚者 リスクの先送り

4. 新たな連帯は可能か？

(長いので適当にスキップします、あまり明るい話ではありません)

1. はじめに

社会的連帯と家族

はじめに 社会的排除と家族

✓ フランス映画『よりよき人生』(セドリック・カーン監督・2011)

単なる「低収入者」が「アンダークラス」に転落していく

役所の担当者「頼れる家族はいないの？」 → 「里親に育てられたので」 → 「ではどうしようもないわね」

(最後には、愛する女性＋連れ子 で救われる)

ベルギー映画『ある子ども』(ピエール&ダルディンヌ監督・2005)

アンダークラスの若者 母親は再婚して息子に無関心
(最後、妻と子に救われる)

連帯とは？

連帯 — 単なる気持ち、共感ではない

- ✓ 自分が汗水たらして働いた成果を、見返りを求めず、他者に分け与える
- ✓ 自分が犠牲になっても、他者にサービスする

個人主義化している近代において連帯が可能か？

近代社会

連帯 — 基本的に「家族」と「国家」に依存

✓ 家族なら分け与えられる 家族の愛情幻想

例) 家族ペット 愛するペットのためなら100万円でも出す

(家族-自分を大切にしてくれ必要にしてくれる対象)

✓ 国民なら分け与えられる 国民幻想

例) EU ドイツ人 ギリシア人のためにお金出したくない

トランプ大統領 移民には分け与えない

c.f. 一昔前の日本の会社 一種の共同体

利益を犠牲にしても、不必要な人材を正社員として、雇い続け、生活するのに十分な給料を与え続ける

近代社会

家族と国民の連帯を基礎として運営してきた

生活に困った人がいた時に、

- ✓ 家族であれば、多いに助けるだろう
(例え自分の生活が犠牲になっても)
- ✓ 国民であれば、少しは助けるだろう
(税金や社会保険料を払う程度なら)

近代社会 感情の壁

* 全世界の困った人を助けることはできない
「幻想」と「共感の壁」が必要

共感の壁 (Empathy Wall — A. Hochschild)

これを越えれば、同情しなくてよい限界

強力な壁 家族 国民

弱い壁 親戚、近隣、友人、地域、県民

宗教団体、会社の同僚、会社、非犯罪者

近代社会がうまくいく前提条件

- ① 全ての人に家族がいて、経済的に安定している
- ② 政府財政が健全

家族幻想は強力だけど範囲は狭い
(きょうだいだともう届かない) <一核力>

国民幻想は微力でも範囲は広い、
幻想を強要する「政府」が強力 <一重力>

現在起きていること

1) 家族分野

家族格差という実態

(家族幻想は強力で、むしろ強化されている)

- ① 家族が存在しないケース
- ② 家族がいても、家族を助けられるほど強くないケース
(共倒れ危機—家族幻想があったとしても、できない)
- ③ 家族がいても助けない 家族とみなさない
(家族をやめるという選択肢 DV、遺棄、離婚など)

現在起きていること

2) 国家分野

財政危機とグローバル化 国民幻想の弱体化

* 経済低成長と生活水準の停滞

① 再分配の限界

自分の生活水準を下げてまで、税を負担したくない

② 負担するものが国家から離脱可能

(企業の海外進出、資産家の海外脱出)

(③ 外国人問題(在住外国人—日本ではまだ少数))

家族と国家を離れた連携・・・可能？

マルクス プロレタリアートの連帯

失う物がない「多数派」だったから可能だった？

- ✓ 豊かな社会の人々 失う物が多すぎる
自分や家族の中流生活を犠牲にしてまで、他者を引き上げる動機がない（他人はしていないのに）
- ✓ 家族幻想、国民幻想以外の強力な「幻想」は今のところ、広まらない
宗教教団も例外ではなくなりつつある

家族と国家を離れた連携・・・可能？

地域社会の連帯、ボランティア

経済成長が高いから可能だった？

__経済の高度成長期 バブル

自分の生活が豊かになっているから、他人にも分ける気になる

✓ 経済低成長期－生活水準低下という現実

他人を助けると、自分や家族の生活水準が低下。
時間があるなら、仕事して自分の生活を守りたい

家族と国家を離れた連携・・・可能？

地域社会の連帯、ボランティア

地域移動が難しいから可能だった？

1990年位まで 地域移動は原則しない

先祖代々住んでいる、家を買ってそこに住み続ける
「運命共同体意識」があった

✓ 1990年代以降 格差社会の進展

富裕層は環境のよい所に移動する自由

貧困層は住宅費の安いところに移動を強要

→ 貧困から脱出した人は、移動してしまう

2. 日本の社会保障の前提

社会政策の目的

エスピン＝アンデルセン(1999)←マーシャル

- 1) 人々を社会的リスク(病気、失業、家族の喪失など)から守ること
人々が貧困状態に陥らないようにすること
リスクに陥った人を貧困状態から救い出すこと
- 2) 社会統合を脅かす社会的分断に橋を架けること
貧富の差に代表される社会階層の差を縮める
社会階層の固定化を避けること(世代内、世代間)

現在日本の状況

格差の拡大、新しい貧困（貧困の再発見）

社会的排除される人々、予備軍（低収入者、まともな生活ができないアンダークラス）の出現

<理由>

- ・仕事や家族のあり方が根本的に変化している
- ・従来の制度が対応できない

<結果>

- ・「リスクから守られる人」と「リスクに晒される人」への分断が起きている

日本の社会システム(社会保障制度)の基本的特徴

- ✓ 制度の内側に入れば低リスク(近代家族を形成できた人)
安定した企業の正社員・公務員とその家族
- ✓ 制度の外に出れば高リスク(近代家族を形成できない人)
多種多様(不幸な家族はそれぞれ ← トルストイ)

【現在】 かなりの方が制度の外側にこぼれていく 社会的排除
こぼれた人はアンダークラスになるリスク、
リスク回避のため、結婚、子育てを先送り(パラサイトシングル)

現行の日本の社会システム(社会保障・福祉)が
よって立つ前提

近代家族による包摂

近代家族-夫は主に仕事(正規雇用など十分な収入)
、妻は主に家事、ケア-豊かな生活を目指す

その前提

すべての人が近代家族(標準家族)を形成できる

家族は経済的に安定 家族を扶養可能な男性がいる

家族の愛情幻想(背後の前提 家族であれば助ける)

近代家族(標準家族)の前提

① 大人がフルタイムで働けば、家族が人並みの生活をするのに十分な収入が得られる

家族に誰か一人でもフルタイムで働いていればその人に家計を依存して生活できる

② ライフコースが予測可能

全員、「望めば」標準的ライフコースを辿ることができる(予測可能)

1) 自営業コース(夫婦共に家業に従事し、息子夫婦に跡を譲る)

2) サラリーマンー主婦コース(夫は正規雇用で定年まで働く)

ー狭義の近代家族

(共働きも、三世代家族も経済的安定があれば、近代家族の変形)

現行の社会保障／福祉制度の理念

- ✓ ①標準的ライフコースを送る人の人並みの生活の保障
- ✓ ②標準的ライフコースから外れた人を一律最低保障に落とし込む

<公的保険>

標準的ライフコースを送る人でも陥るリスク(長寿、病気、失業)への対処
→ 保険料を負担できるフルタイムで働く大人が必ずいる

<公的扶助>

標準的ライフコースが形成できずに貧困に陥った人への最低保障
→ 生活保護: 全部失わないと使えない

時代的背景

この条件 — **1990**年頃まであてはまった

- 自営業 — 安定して存続できる(世代内、世代間)
(政府の保護、規制 例: 零細農家、商店)
- 被雇用者 — 男性は必ず正社員になれ、定年まで勤められる(労働需要が旺盛)
- 女性 — 自営業者か正社員と結婚でき離婚しない
(非正規パート、アルバイトは家計補助にすぎない)
- 若年者 — 近代家族形成・維持が可能

3. 格差社会の進展 二つの前提条件の崩壊

二つの前提条件のゆらぎ

1990年代後半から、現行の社会保障の前提が失われた
ニューエコノミーの浸透(グローバル化)、世界的にも格差拡大

- ① 誰でもフルタイムで働けば扶養可能十分な収入を得られる
- ② 誰でも、結婚して家族を作ることができ、離婚しない

という前提条件ゆらぐ

① ワーキング・プアの出現 (非正規、見通しのない自営業、低収入正社員の増大)

*フルタイムで働いても家族を養うのに十分な収入が得られない人々の出現

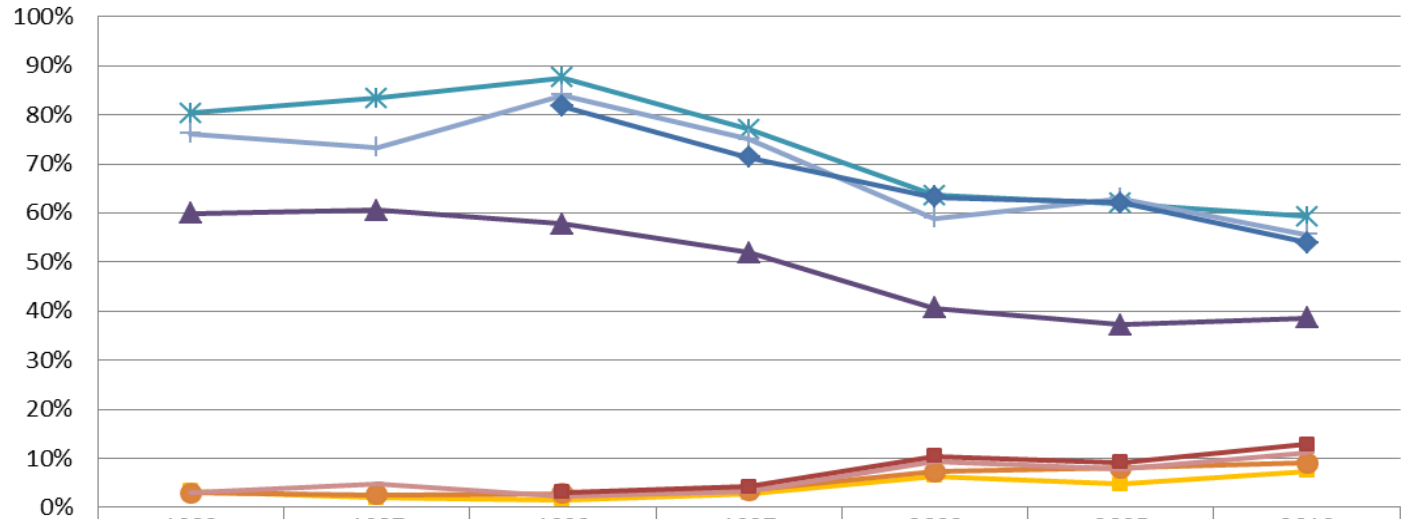
✓ 安定した収入のフルタイム職の絶対数が減少

✓ 望んでも正社員(正規公務員)になれない人、
転落してしまう人(特に若者の増大)

✓ 自営業の衰退(後継ぎの若者の行き場なし)
(世代内、世代間の存続が不可能に)

男女とも未婚の非正規雇用者が増大(男性)

未婚者の正社員率・無職率 (男性)

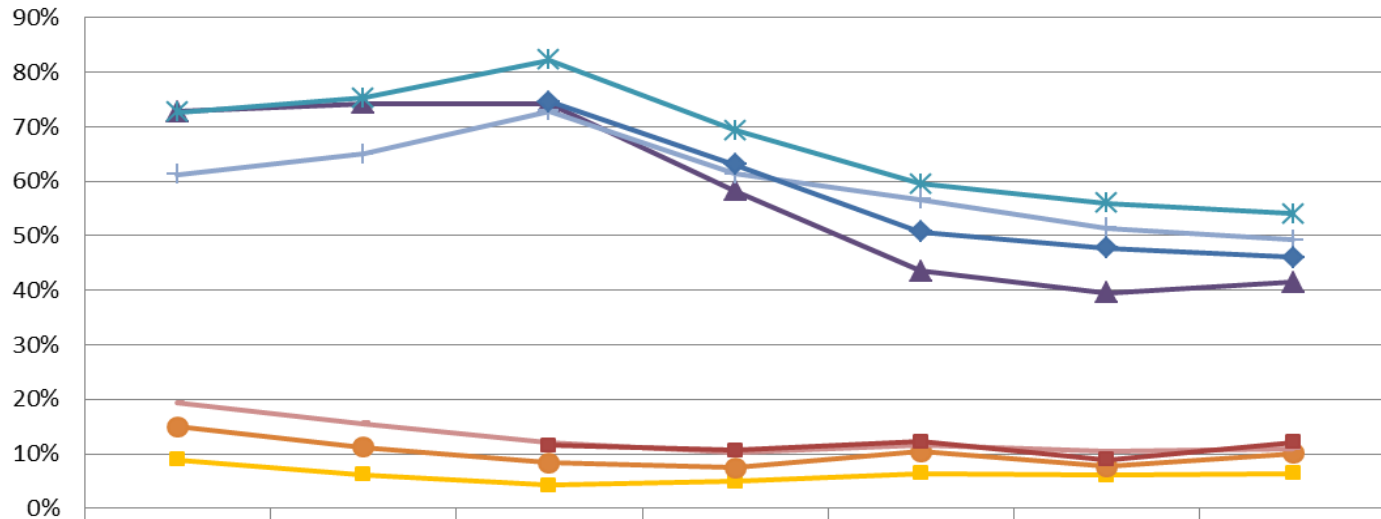


	1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010
正社員(20～24歳)	59.9%	60.5%	57.8%	51.9%	40.6%	37.2%	38.6%
正社員(25～29歳)	80.3%	83.4%	87.6%	77.0%	63.6%	61.9%	59.3%
正社員(30～34歳)	76.2%	73.4%	84.0%	75.0%	58.9%	63.0%	55.6%
正社員(35～39歳)			81.8%	71.4%	63.2%	62.1%	54.0%
無職・家事(20～24歳)	3.4%	2.0%	1.6%	2.8%	6.4%	4.8%	7.4%
無職・家事(25～29歳)	3.0%	2.6%	2.9%	3.5%	7.3%	8.0%	9.1%
無職・家事(30～34歳)	3.0%	4.8%	2.4%	3.2%	9.4%	7.9%	11.2%
無職・家事(35～39歳)			3.1%	4.2%	10.5%	9.2%	12.9%

出典: 出生動向調査(国立社会保障・人口問題研究所)

男女とも未婚の非正規雇用者の増大(女性)

未婚者の正社員率・無職率（女性）



	1982	1987	1992	1997	2002	2005	2010
正社員(20～24歳)	72.8%	74.3%	74.3%	58.3%	43.5%	39.5%	41.5%
正社員(25～29歳)	72.7%	75.3%	82.3%	69.4%	59.5%	56.0%	54.1%
正社員(30～34歳)	61.2%	65.0%	72.9%	61.3%	56.7%	51.4%	49.3%
正社員(35～39歳)			74.6%	63.1%	50.7%	47.8%	46.1%
無職・家事(20～24歳)	9.0%	6.2%	4.3%	5.0%	6.5%	6.1%	6.5%
無職・家事(25～29歳)	15.0%	11.2%	8.4%	7.5%	10.4%	7.7%	10.1%
無職・家事(30～34歳)	19.4%	15.6%	12.1%	10.2%	11.7%	10.4%	11.0%
無職・家事(35～39歳)			11.6%	10.7%	12.3%	9.0%	12.2%

出典: 出生動向調査(国立社会保障・人口問題研究所)

② 望んでも標準的ライフコースをとれない人が増大

* 近代家族を形成・維持できない人々の増大
「未婚」、「離婚」、「できちゃった婚」
(収入不安定層に多い)増大

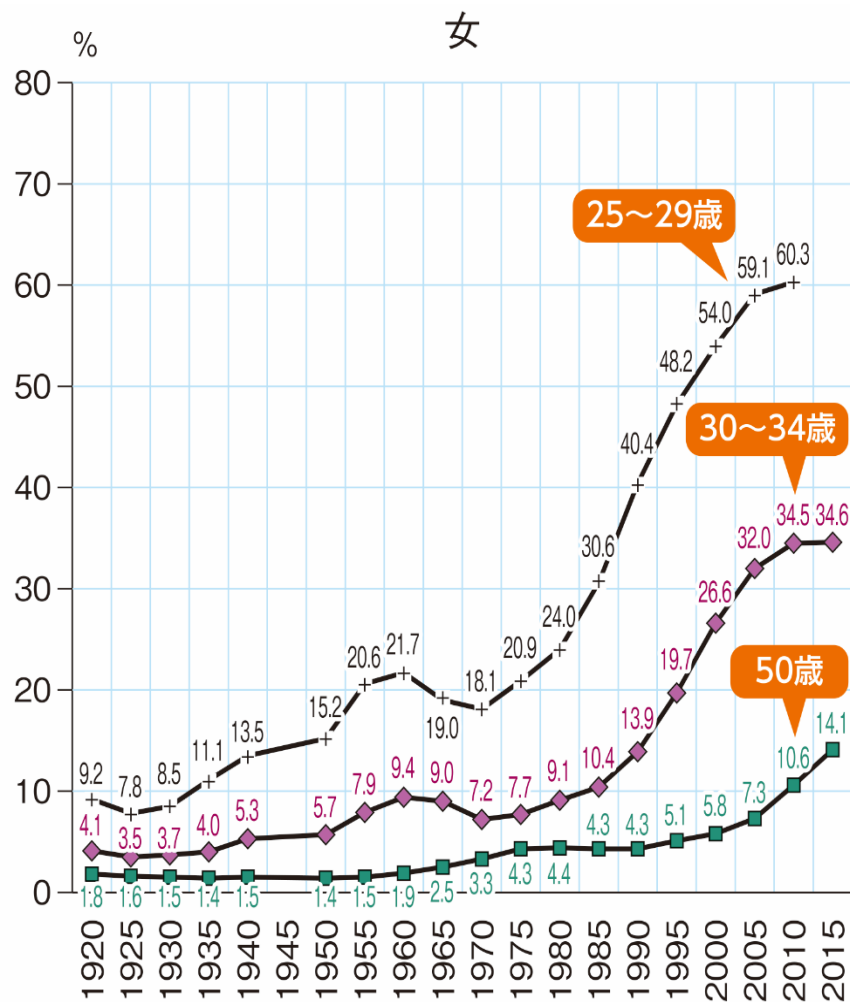
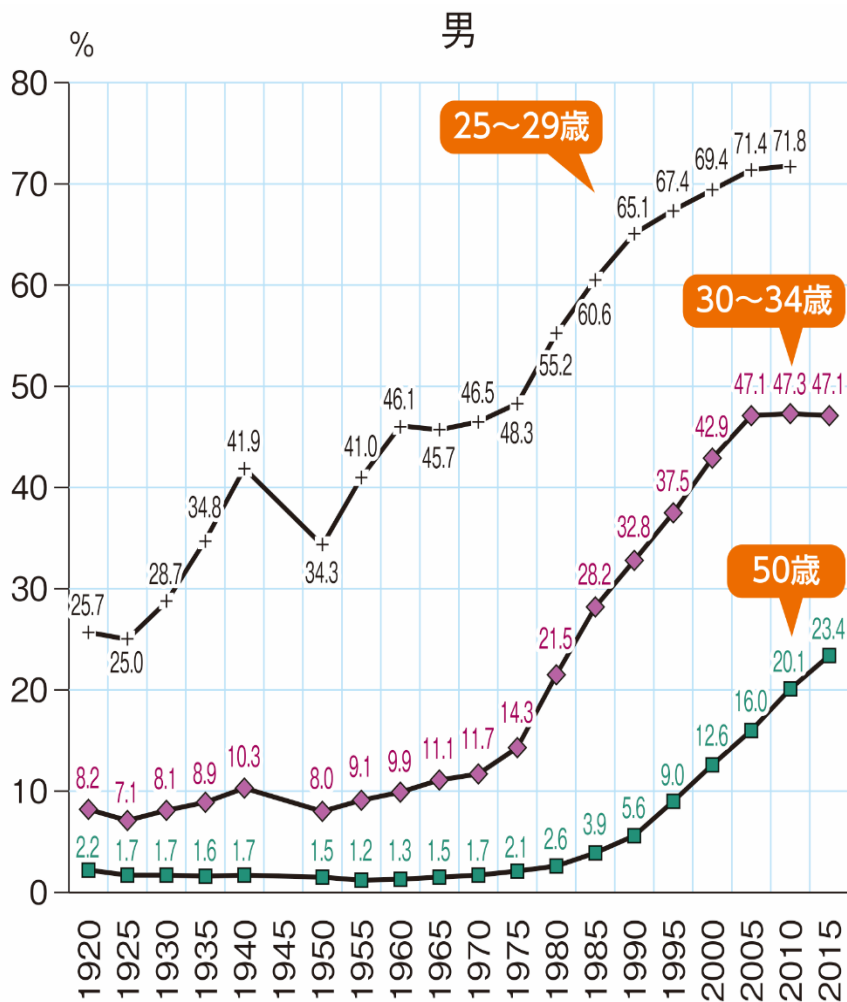
(今の若者の25%が一生未婚、25%が一度は離婚)

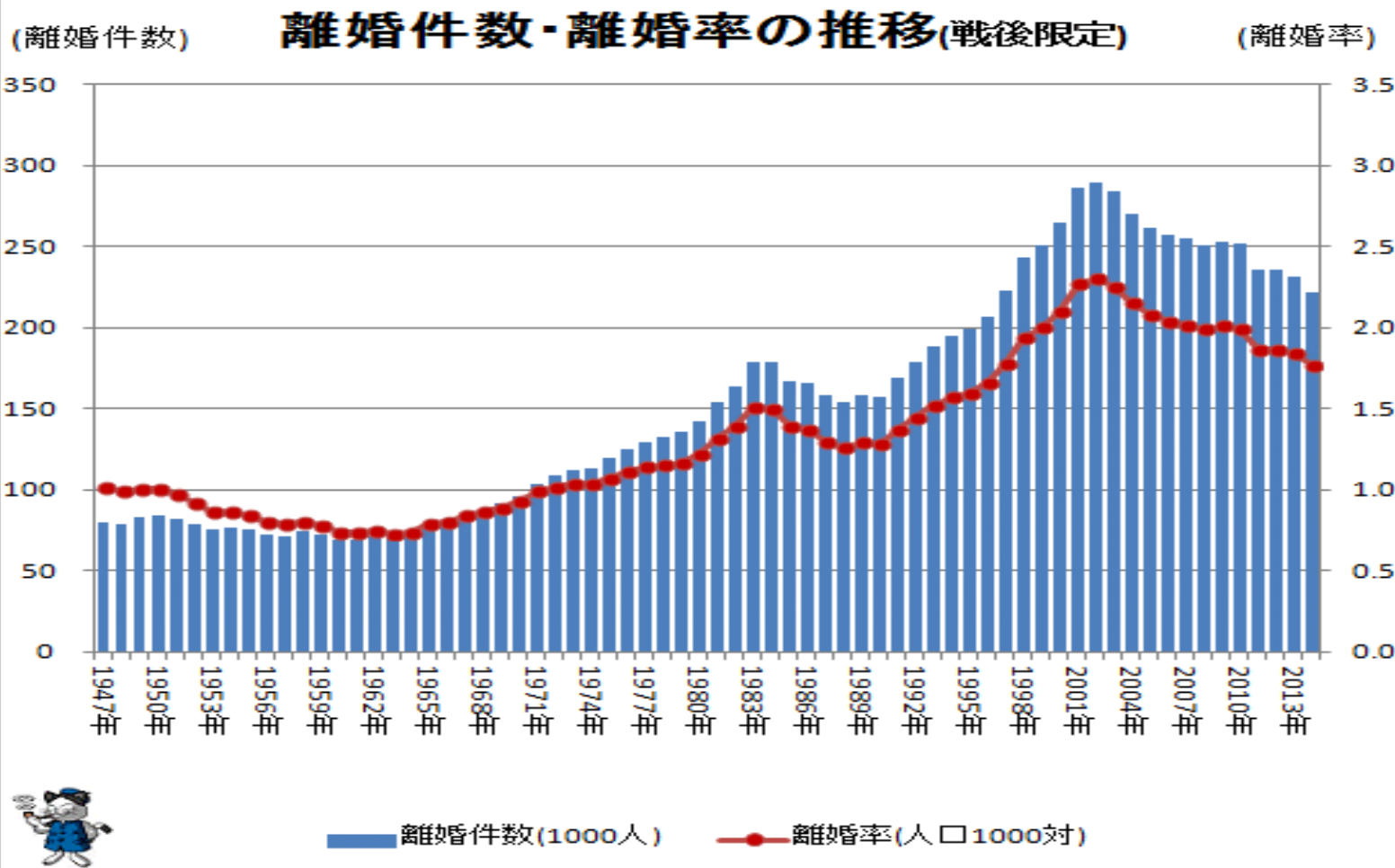
男性－不安定収入層 未婚かつ離婚されやすい

女性－そもそも非正規多い、離婚後も低収入多い

1. はじめに 未婚化の進展

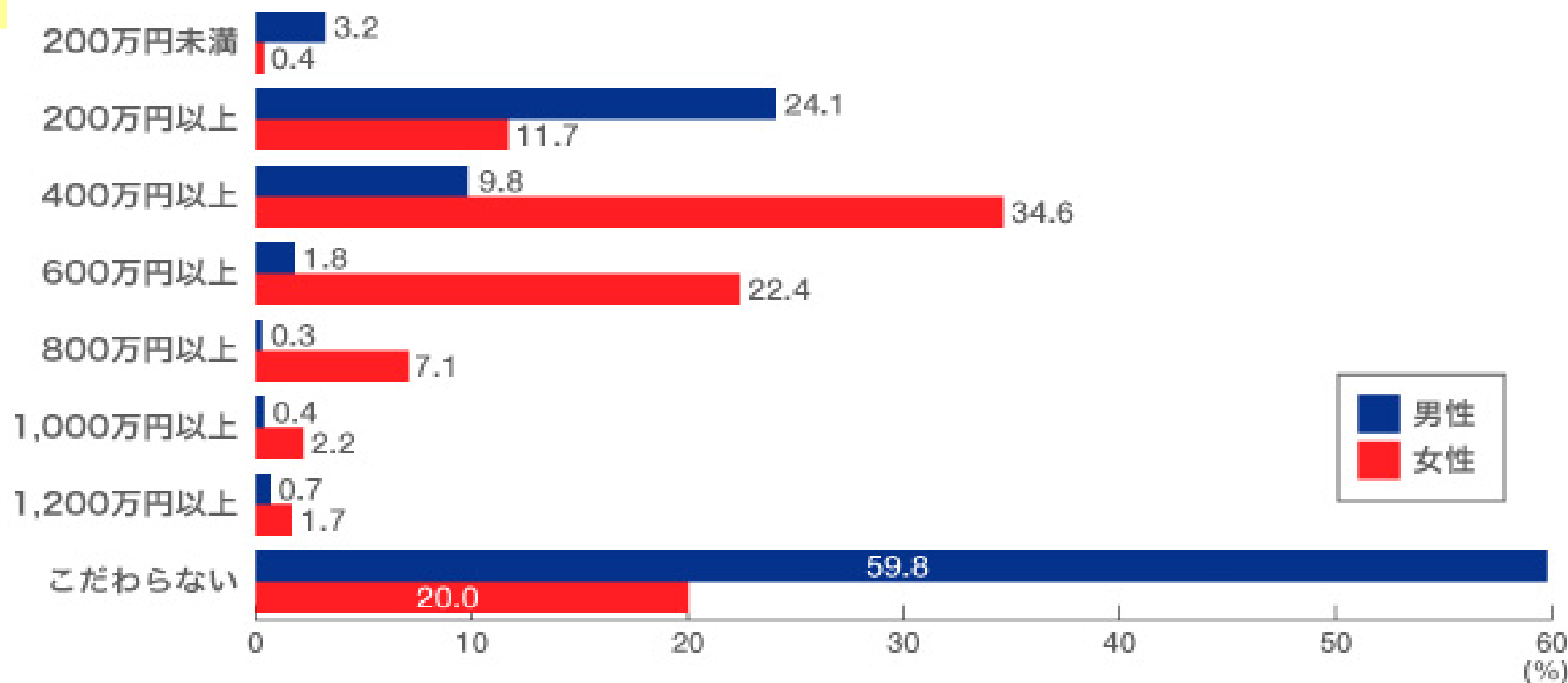
(2015年 30-34 男47.1,女34.6 50歳男23.4,女14.1)





結婚相手に望む年収と現実の未婚男性の年収の比較

結婚相手に望む年収



現実の未婚男性の年収



出所：明治安田生活福祉研究所・「生活福祉研究」号。データは2009年の「結婚に関する調査」（全国ネット20～39歳、4120名の未婚者が回答）

家族形成格差

近代家族による全ての人の包摂が不可能に

- ✓「近代家族を形成、維持できる人」 低リスクのまま
その割合は、徐々に低下

家族の中に十分な収入を得る人が一人以上いる 相対的多数
生活—いままでと特に変わらない 社会変化の動機なし

- ✓「近代家族を形成、維持できない人」 高リスク
徐々に増大

家族がない(単身者)

家族がいても、十分な資源がない(家族全員不安定収入)

今、家族がいても将来いなくなる(中高年パラサイト)

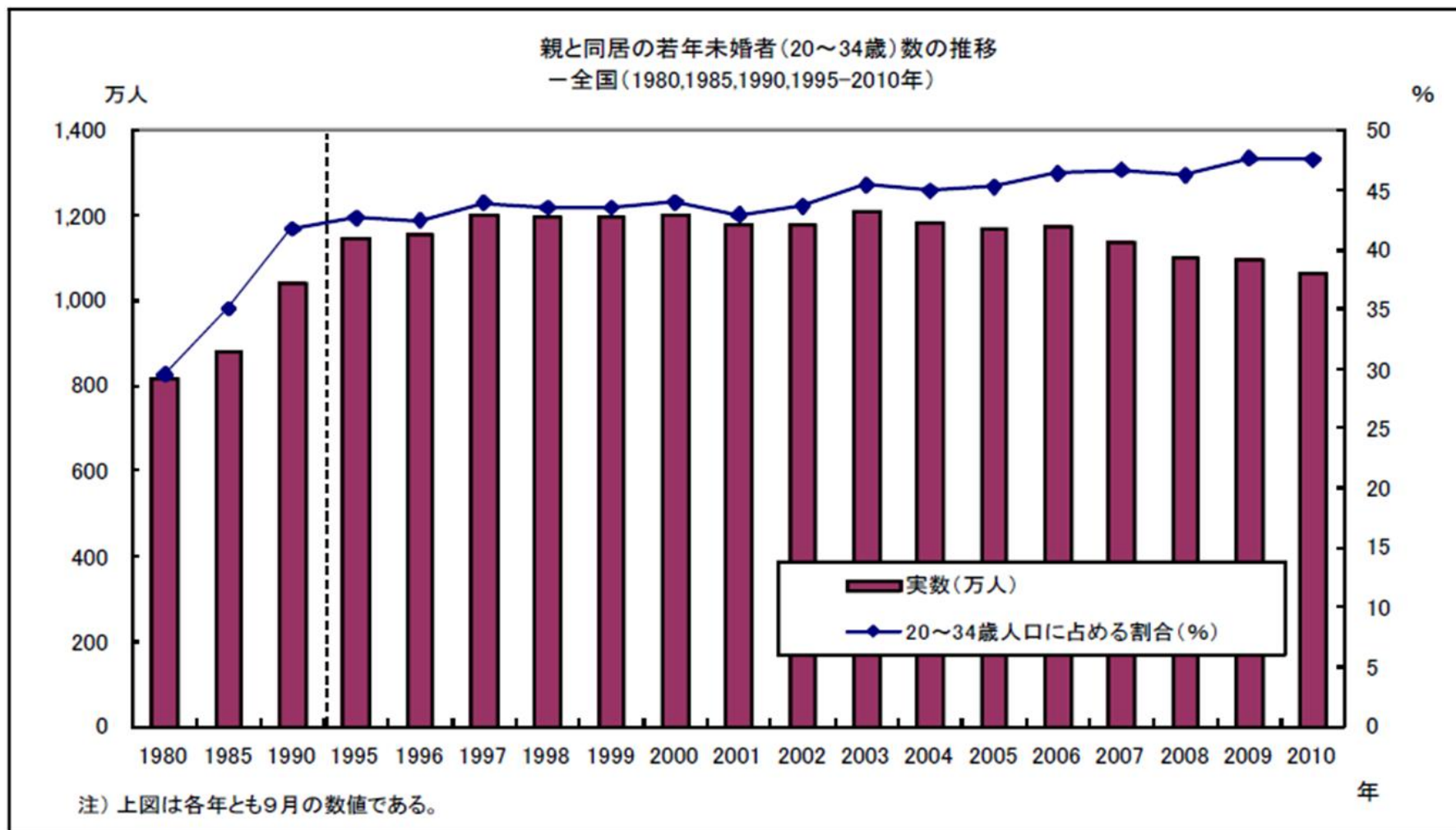
中高年親同居独身者(パラサイトシングル) 高リスク家族の典型

アラフォー・クライシス(**NHK**2018)
20年前の**20**代親同居未婚者の末路

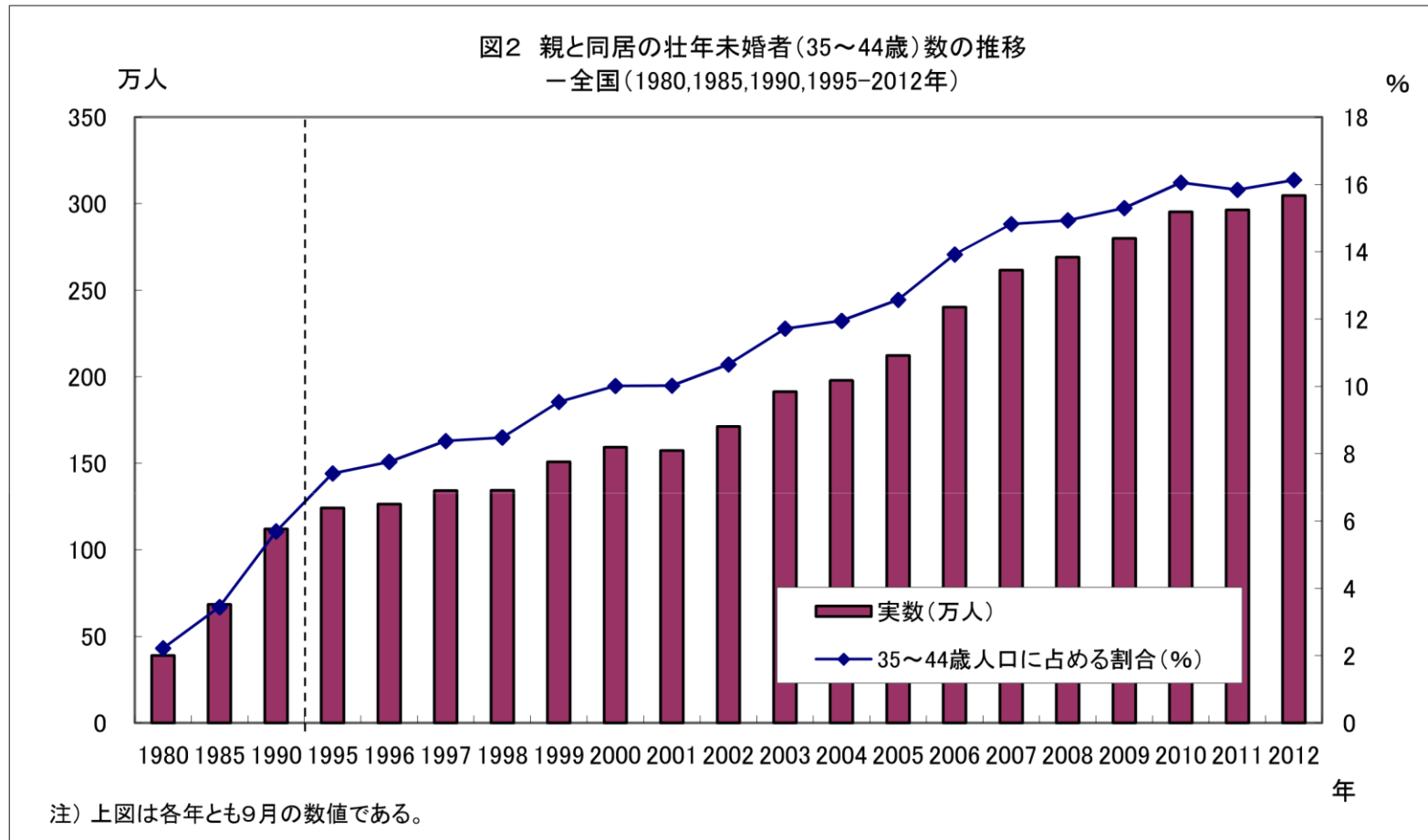
中年親同居未婚者(35-44歳—約**300**万人)
子 — 低収入、無収入が大多数(自立できない)
(男性、低収入だから結婚相手がいない)
(女性、そもそも低収入)
親の年金と住宅で家計を支えている
(親の年金で、子の年金保険料を払うケースも)

- * 高齢者虐待、親の遺体遺棄の温床
- * **20**年後、親が亡くなった後にクライシス

若年未婚者の推移



壮年親同居未婚者の増大



4. 新たな社会的包摂は可能か

三つ階層への分化

近代家族に包摂される若者とそうでない若者 への社会的分断の進行

- ① 近代家族を形成・維持できる若者
(安定正社員男性、彼と結婚した女性の組み合わせ)
- ② 低収入だが頼る(パラサイトできる)家族がいる若者
(親同居未婚者、親同居離別者など)
- ③ まともに生活が不可能な若者(アンダークラス)

今後 ① → ② → ③ への転落が増える
年次進行で中年、高齢者へと広がる

近代家族による包摂の失敗、社会的分断 どのように対応するか？

- ① 近代家族への回帰 — みんな近代家族形成可能にする
- ② 政府への期待 — 国家が国民個人包摂する
- ③ 新しい「連帯」(家族、国民以外)の構築？
コミュニティ？ 宗教的組織？ サークル？
グループ・ホーム？

① 近代家族への回帰 無理

希望する全員が近代家族を形成を可能にする

- ✓ 不安定雇用者、低収入者をなくす
→ 希望者全員が安定収入の正社員に
- ✓ 希望者は結婚できるようにし、離婚しないようにする
→ 女性は全員正社員と結婚できる
- ✓ 共働きの推進(これも、近代家族の変形)

① 近代家族への回帰 無理

回帰方策 人々が受け入れやすい

近代家族幻想 強力

:これを再建するというテーゼは人気が高い

(「家族の愛情は幻想といいながら、結婚しているやつがいる、
落合恵美子、山田昌弘、おまえのことだ」宮崎、八木『夫婦別
姓大論破』)

不安だから就活・婚活に走る(自分の家族だけは助かりたい)

内側に入ってしまうえば一安心 低リスク(今のところ)

① 近代家族への回帰 無理

個々の家族、個々の企業

弱い家族、企業が増えている 格差が大きい

* 家族(格差拡大)

正社員共働き VS 非正規社員共働き

* 企業、公務員

余裕がある企業 VS

グローバル競争中の企業、中小零細企業

(公務員でさえ、非正規雇用を増加させている)

① 近代家族への回帰 無理

「リスク格差の残存」

正規雇用や安定した家族に包摂されない
アンダークラスが増え続けることは確実

＜雇用＞ 強力な雇用規制 非正規禁止、解雇禁止、収入増加が必要

- ・ニューエコノミーとグローバル化への逆行 日本経済衰退
- ・企業、競争が激烈なグローバル企業は絶対に受け入れない
- ・労働者の流動化 なくなる

＜家族＞ 婚活推進、共働きで収入を確保

- ・すでに未婚者、離婚者の増加
- ・雇用が安定しなければ家族形成・維持 不可能

① 近代家族への回帰 無理

■ 近代家族回期の人気の秘密

アンダークラスに落ちた人 自己責任にできる(就職できないのが悪い、結婚しないのが悪い、離婚するのが悪い) — 共感の壁

既に正社員、既婚者にとっては、リスクは他人事

*** 自分の生活を守ることが大事**

たぶん大丈夫と根拠なく信じる

今でも、多数派(非正規雇用者でも、主婦、パラサイトシングルが多数派—満足度高い)

① 近代家族への回帰 無理

クリントン元大統領 演説

過去は過去、過去にしがみつくと未来を失う

ただ、未来が明るいとは限らないから、

過去にしがみつきたくなる

(格言－非効率な銀行を保護することは、効率的な新しい銀行が生じる芽を潰すことだ)

② 政府への期待 国民としての生活保障

非正規雇用でも、近代家族を形成できなくても、
国民の生活を保障

国民幻想による包摂 全ての国民を制度の内側に

- ✓ ベイシック・インカム、ネガティブ・タックス、所得保障
- ✓ 正規雇用・非正規雇用の格差是正、男女差別是正、
職業訓練、自立支援
- ✓ 子育て支援、子ども手当、個人を単位とした社会保
障

国民としての生活保障が成功した国

- 北欧、オランダ ある程度成功

- 雇用面 企業による保証に頼らない

国全体で雇用保障

オランダ 短時間正社員、解雇時企業に職斡旋義務

デンマーク 正社員解雇容易、国が職斡旋、

- 家族の有無 家族形態によらない社会保障

② 政府への期待 国民としての生活保障

政府関与方策 リアリスト的だが、政策変更の道のり長い
リアリスト(専門家、一部経済界、政治家)の人气が高い

抜本的な社会保障制度の組み替えと制度の内側の人の負担増加必要

✓ 国民幻想は強くない 一層の負担を近代家族を形成している人
(内側に入っている人)が受け入れるか？

✓ グローバル化に耐えられるか 富裕層の国外への逃げ出し
外国人を包摂できるか

(国外の人と平等の生活水準 今の時点では受け入れられない)

国民幻想で説得できるか？

■ リスク不安をあおる戦略

あなたや家族、子どもがアンダークラスに落ちるかもしれない(就職できない、結婚できない可能性)

→ ならない可能性の方が高い、

ならないように自分たちで自分の家族を守るだけ

* 社会不安を煽る戦略

社会が分裂する、スラムができる、社会不安

→ そこにいかなければよい、みなければよい

③ 新しい連帯の構築 家族幻想、国民幻想

政府に頼らないで、
自主的な「連帯」の試みに期待

労働分野： 起業、フリーランス、ワーカーズコレクティブ、社会的企業

生活分野： シェアハウス、グループホーム、おひとりさまの連帯、新しいコミュニティ

③ 新しい連帯の構築 家族幻想、国民幻想 二極化(ライシュ、バウマン コミュニティの階層化)

- ✓ 近代家族幻想を自ら捨てた強者
起業でも、シェアハウスでもやっていける(少数)
- ✓ そもそも、近代家族を形成できない弱者 (圧倒的に多い)

相互に支援 無理 弱い人同士の連帯

(発展途上国の下層社会の助け合い『日本を捨てた男たち』)

(近代家族を形成できるくらいに強くなると、近代家族に逃げてしまう)

支援する人々、強者(少数)か近代家族に包摂されている人
自分の利益や家族を捨ててまで、支援する人は少ない? ⁸⁰

③ 新しい連帯の構築 家族幻想、国民幻想ではない 新しい連携は可能か？

✓ 新たな連帯

近接した小範囲しかその幻想は及ばない？

弱い(全面的支援は期待できない—家族の補完程度)

幻想が普遍的に広がるか？ (贈与経済、宗教？)

✓ 寄付などの広範囲なもの 量的に不十分

(国家の強制なしには、家族生活を犠牲にしてまでなかなか自己利益を手放さない)

「自分の近代家族を維持するのに精一杯の人々」に
どのように訴えるのか？

③ 新しい連帯の構築 家族幻想、国民幻想ではない 新しい連携は可能か？

✓ 経済状況、思想状況の変化

- * 「ボランティア(社会活動)」参加率 高くない
ボランティア活動の行動者率は、低下傾向

1986—25.2 1991—30.0 1996—26.9 2001—28.9

2006—26.2 2011—26.3(% 社会生活基本調査)

三谷はるよ『ボランティアを生み出すもの』

- * 共感の壁の正当化

差別言説、トランプ政権の誕生——

家族や国を超えた連帯を構築することへの反感の正当化

③ 新しい連帯の構築 家族幻想、国民幻想ではない 新しい連携は可能か？

✓ 経済状況、思想状況の変化

* 経済的に余裕がない人が増えた

無償では動かない、動けない

社会的企業やNPOで働く人は増えている

介護の有償化（介護保険、有償ボランティア）

* しかし 低収入 — 「やりがいの搾取」

搾取分がボランティア（やりがい、愛情）？

（本田由紀、「逃げるが恥だが役に立つ」）

付録 供給主体の多様化の意味するもの

- ✓ 供給主体の多様化 — 供給側、受け手側
同じサービスが様々な主体によって
供給側の動機、受け手の意味づけ

* 介護する人の多様化

家族

愛情or義務

ボランティア

理念

公務員、業者

(生活できる)給料

NPOは？

理念＋お金？

付録 供給主体の多様化の意味するもの

* ハグ

恋人 特定の人への愛情、拒否されるかも

日本抱擁普及協会 ハグは世界を救う

JKビジネス 1回1000円

* 食事をしながら話(愚痴、自慢話)を聞いてもらう

友人 無償 気を遣う、劣等感

傾聴ボランティア 無償 選べない?

おっさんレンタル 1時間1000円

レンタル彼氏 1時間10000円から(キャバクラ)

ホスト 1回 50000円?から

ご清聴ありがとうございました

